

令和5年度 中央区理科部の活動方針

～研究主題～

理科の見方・考え方を働かせ、主体的に問題を解決する児童の育成
—基本・改善・工夫のある授業づくり—

【主題設定の理由】

今の子ども達が成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や技術革新等により、社会構造や雇用環境は急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。このような時代にあって、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。中央区理科部会においても、このような課題意識を踏まえた研究を進めていく。

一方、中央区の現状に目を向けると、生物、地学を中心に指導に困難を感じる単元の学力に共通した傾向がみられる。本区特有の自然環境や各單元における指導上の課題を踏まえ、よりよい授業づくりも大きな課題である。また、授業の構成や進め方、実験や観察の準備等、理科の授業づくりを苦手にする教員もみられる。

上記の課題解決にあたり、問題解決のそれぞれの過程において、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にし、指導の改善を図っていくことが重要である。そこで、理科部会では研究を進める上で、中央区の理数パイロット校である城東小学校の問題解決の過程を基盤にしていることにした。

新学習指導要領では、問題解決の過程において、「自然の事物・現象をどのような視点で捉えるか」、「どのような考え方で思考していくか」を学年ごとに整理、明記された。問題解決のどの過程で、どのようにして「見方・考え方」を児童に働かせるかに焦点を絞り、研究授業を行っていく。問題解決の過程を再確認し、問題解決の過程に児童が意識的に「見方・考え方」を働かせる手立てを研究し、自ら考える児童を育成することを目指すことにした。

【年間計画】

4月	研究主題・年間計画・組織の確認 授業者検討	10月	中学年分科会提案授業 「ものの温度と体積」
5月	分科会決め・分科会内の担当決め 研究授業の単元検討	11月	高学年分科会提案授業 「流れる水のはたらき」
6月	ミニネタ共有研修	12月	研究発表会
7月	指導案検討	1月	高学年 OJT 実技研修
8月		2月	まとめ
9月	中学年 OJT 実技研修	3月	まとめ